

富山地方鉄道鉄道線再構築検討会・本線部会 会長

富山県知事 新田 八朗 様

地域交通の全体最適化に向けた検討にあたっての要望書

富山地方鉄道鉄道線再構築検討会本線部会における今後の進め方の検討において、赤字に目線が集まりやすい中で、幅広い鉄道の価値を示した鉄道の社会的便益について、今後の議題にとりあげることとされました。

当市としても、社会的便益は大事な観点であると考えており、大きなポテンシャルを有するとの専門委員の力強い見解を踏まえれば、その効果・価値は県東部のみならず、県下全体に及ぶものと想像されます。

また、富山市長が発言されたとおり、魅力のある富山県を作っていく視点に立ち、選ばれる地域づくりを進め、地域を活性化していくことは大きな課題であり、その大事な基軸として、富山地方鉄道の鉄道線があります。

その他、検討会及び部会を通して委員より示された次のような意見については、当市も同感するものであり、当然に、今後の検討会において踏まえなければならない観点となります。

- (1) まちづくりの観点で、20年、30年後をしっかりと位置付けて計画し、議論しながら、その中で今後の10年間にどういう投資をしていくのか、具体的なところをしっかりと詰めなければしっかりしたものになっていかない。持続可能な運行形態をどうしていくのか、最も効率的な運行をどうするかということを具体的に詰めていく必要がある。
- (2) 住民の意見は大変大切であり、皆様に判断していただき、意見を求めるためには、公共サービスの一環として、便益はどれだけあるのかをしっかりと示す必要がある。検討会において、社会的便益について、住民の皆様にしっかりと伝えていけるようなもの作り上げたい。
- (3) 交通は鉄道以外にも数多の交通手段がある中で、「交通」と「鉄道」が混在しては正しい受け止めができないため、明確に分けて整理し、議論をしていただきたい。

以上、検討会及び部会での議論を踏まえ、住民にしっかりと伝え、説明を果たし、意見を伺うため、次の事項を早急に算出されるよう検討願います。

- (1) 富山県として、本線（電鉄富山駅～宇奈月温泉駅間）が県下全体に与える社会的便益を算出されたい。一市民団体の試算を精査するにとどまることがないよう願います。
- (2) 社会的便益は、県下地域ごとに異なる事情があることから、生活利用や観光面などの観点に応じ、それぞれ地域（市町村）が具体的に受ける受益の範囲を明確にされたい。
- (3) 社会的便益と費用について、現在のみならず、人口減少や自動運転などモビリティの革新等を踏まえた時間軸に視点を置き、10年後、20年後、30年後まで整理されたい。
- (4) 社会的便益と費用の算出においては、検討する項目により結果が変動する可能性があることから、検討する項目をしっかりと検討会で協議されたい。
- (5) 「交通」のネットワークが途切れることなく繋がっていることが大事であり、「鉄路」（富山地方鉄道、あいの風とやま鉄道）と「道路」（自動運転対応 BRT など）のベストミックスについて検討されたい。
費用便益比（B/C）の調査にあたっては、「鉄路」を存続した場合（地鉄単独又はあいの風とやま鉄道との併用）と、「鉄路」と「道路」を組み合わせた場合に分け、試算を願います。
- (6) 社会的便益及び地域ごとの受益範囲、費用便益比等を踏まえ、各市町村が投資するに妥当なコストを明確にされたい。なお、算出される社会的便益が、税金を投入して維持すべき経済的正当性に直結するかどうか、慎重な議論を願うものであります。

令和8年6月5日

滑川市長 水野 達夫

